淡水眞珠の養殖に関する研究　第6報※
眞珠養殖における養殖法と眞珠の巻きについて

水　本　三　朗・小　林　吉　三

ま　え　が　き

本県の淡水真珠養殖における養殖法は，一般にいわゆる地播様式で，手術母貝を竹簀でかこった水面に直接撒布する方法が長く行われて来たが，この方法によると，養殖場の撰定にあたって底質水深等の制限をうけること，養殖期間中の管理，即ち斃死の状況，真珠の沈積状況等の観察に不便であること，採り揚げにあたって養殖貝を完全に採取出来ず，又この作業に相当の労力を必要とすること等の不利な点が指摘されている．これらの点を改善するため，当試験場においては，昭和24年以来，この地播様式を改良したものとして，金網籠吊りのいわゆる垂下様式を考案し，これについて試験研究を行って来た．最近にいたり，当業者も，漁場の底質荒癈による真珠分泌の低下，水面の立体的利用等のため，この垂下様式に着目するにいたり，急速に普及実施されている．この改良された垂下様式によるときには，従来行われて来た地播様式よりも明かにその真珠の巻きが良いと云われている．筆者等は，今回この点について更に試験を実施し，1～2の知見を得たので，その結果を報告する．

材料及び実験方法

実験に供した材料は昭和27年8月，挿核手術を施行した手術母貝（殻長 15～17 cm）である．挿入原核は1.6分（4.8mm）で，この中より重量150mg，156mgのもののみを撰別して使用した．手術部位としては左右両側の外套膜中心部に行い，各側3個づつ，計6個を挿核した．手術を終った母貝は，約10日間清水中で仮蓄養した後，斃死貝を除き，9月初旬，本場試験池（1,000坪）に本養殖を開始した．

養殖方法としては，一部を金網籠（50×50×15cm）に15個宛收容し，試験池内に設置した垂下台に，垂下深度水面下0.5 m にして懸吊し垂下養殖法を行った．これと同時に他の一部のものを同試験池内に10坪の竹簀区画水域を作り，これに直接撒布し，地播養殖方法を行った．

実　験　結　果

上述の手術母貝を満3年養殖し，昭和30年9月採り揚げ，各法について採珠を行った．採取した真珠は，異形，汚み玉を除き，正常な沈積をみたものの中から任意に摘出した，各法各々10個体づつ

※　滋賀県水産試験場研究報告　第一，第二，第三，第四，第五号

について，その巻き具合即ち，直径，重量を測定して，これより原核の直径，重量を差引き，養殖期間中の真珠沈積量を算出した．結果は次の通りである．

この表に見られる通り，垂下法においてはその真珠沈積量は，地播式のそれと比較するとはるかに良好な結果を示している．今この養殖様式の違いによる真珠形成の相違を，真珠質沈積重量について t －検定を行い，その有意差を検定すると，

養殖法の相違による真珠質沈積量

養殖法	地播法		垂下法	
	厚さ mm	重量 mg	厚さ mm	重量 mg
沈積量	1.7	227	1.7	208
	1.5	179	1.3	155
	1.6	202	1.5	147
	1.6	212	2.1	284
	1.6	192	1.9	254
	1.2	142	2.2	274
	1.4	167	1.9	257
	1.1	122	1.7	255
	1.1	140	1.9	270
	1.2	142	1.7	284
平均	1.4	173	1.8	239

$$t=2.933 \qquad t_{0(0.05)}=2.262 \qquad (n=9)$$

となり5％の危険率をゆるせば有意で，明かに差が認められた．

即ち在来の養殖法としての地播様式よりも，垂下式による方が真珠の巻きが良好であるといえる．

尚各様式間における真珠の色の相違は殆ど認められず，全て一様に淡いピンク色を呈しており，この色の相違は養殖様式よりも環境の相違に基くものと考えられるので，この点については後日報告の予定である．

ま　と　め

淡水真珠の養殖法とその真珠形成について比較検討した結果，在来実施されてきた地播様式に比し，垂下様式の方が真珠の巻きがはるかに良好である．

引　用　文　献

山口一登　1956　真珠養殖における垂下養殖と真珠の巻き及び色について．
国立真珠研究所報告 I．